

中部支部

支部長 松原貴子

中部支部では、例年、6～7月に中部支部総会と研究集会、1～2月に支部研修会を開催してきました。今年度は、2022年開催予定の第46回年次大会にむけて様々な活動を再開しました。

1. 年次大会にむけて

第46回年次大会は三重の地で開催されます。伊勢といえば、今では伊勢神宮のある伊勢市という限定された土地を指しますが、三重県の多くは元来伊勢の国でした。神宮で古来より継続されている営みとその根底にある思想には、自然と共存し日々の営みを通して実践する真の援助の在り方を示唆してくれるものがあります。「穢れ」という概念には「気が枯れる」という意味があります。「気が枯れる事」つまり「エネルギーの枯渇」です。身近な死に接したものは一定の期間お参りを控えるようにという教えには、感染症予防の概念がなかった時代には感染を持ち込まないため「不浄」とし、神域の出入りを避ける意味があったと推測されますが、それだけではなく「つらく哀しいことに触れ、気力を失ってしまっているひとにとって、その死に向き合い自分の気持ちを整理し、回復をしていく大事な期間」であり「自分を癒す時間が必要である」という気の回復や癒しに焦点をあてた援助の精神が根底にあると思われま

す。「常若（とこわか）」とは、常に若々しい状態を保つという意味を持ちますが、老いる・朽ちるを避けるという解釈ではありません。森羅万象の中で老いる・朽ちる・死は自然の摂理です。いのちが有限であるがゆえ、断絶しないよう技術や知識を次の世代に伝承していくことで、常に新しい息吹とともに日々の営みをつづけることができるという考えです。20年に1回行われる伊勢神宮式年遷宮もこの考え方に基づくものといえます。看取りのとき「息を引き取る」と表現するように、次世代が引きつぐと読むこともできます。大きな自然・長い歴史の中での一人のひととして、どう生きるか、何を受け継ぎ、次にどのような引き継ぐのか、は大きな命題のように思います。

いのちにまつわるつながりは、家族という血のつながりだけでなく、時の流れの中でのつながり、同じ時間を過ごすものとして社会の中でのつながり、場所のつながりなど様々さまざまあり、きっと、死をも超えたつながりになるでしょう。新型コロナウイルス感染症の出現という未曾有の体験は日々の生活を激変させ、人間関係を分断し孤立・孤独をもたらし、死の臨床における苦悩や困難をより深く複雑にしています。年次大会では、一人のひとが死を迎えるとき「誰と誰がどのようにつながると支えとなるのか」、いつかは死を迎える「私」としては「どのように生き、何をどのようにつないでいけばいいのか」を考える場になればと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響によって通常開催かオンライン開催かはまだ未確定ですが、参加して下さるみなさまにとって第46回年次大会が実りある大会となりますよう取り組んでまいります。三重であえることを心から願います。どうかよろしく願いし申し上げます。

2. 開催概要

(ア) 会 期：2022年11月26日（土）・27日（日）

(イ) 会 場：三重県立総合文化センター

三重県津市一身田上津部田 1234

(ウ) テーマ：いのちをつなぐ～そのときをどう生きる？どう支える？

(エ) 大会ホームページ：<http://jard46.umin.jp>

【活動報告】

第26回研究集会

会 期：2021年9月5日（日）10：30～12：00

方 式：オンライン開催（zoom ウェビナー）

プログラム：

講演1

第46回死の臨床研究会年次大会開催準備のご報告

中部支部長 三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター 松原貴子

第46回年次大会テーマ「いのちをつなぐ～そのときをどう生きる？ どう支える？～」を紹介し、大会趣意・現在の準備状況を報告しました。

講演2

社会的苦痛の緩和ケアと社会的処方

川崎市立井田病院緩和ケア内科／一般社団法人プラスケア理事

西 智弘先生

内容：つながり～「枠を超えてゆるくつながる」をコンセプトとして、地域が「病気になっても安心して暮らせるまち」になることを目指した活動を展開している西先生に講演をお願いしました。イギリスではじまった「社会的処方」は、身体やこころを病んだ患者に、家庭医が薬を処方するだけでなく、その人に合った地域交流を紹介する取り組みです。日本での先駆的な取り組みを紹介していただきました。

【活動予定】

第20回研修会

会 期：2022年2月20日（日） 時間の詳細は未定

会 場：三重大学医学部臨床第1講義室

方 式：対面型式

内 容：午前 講義 午後 事例検討

「(仮)臨床倫理－オランダの対話的技法MCD (moral case deliberation) を紹介しつつ」

講 師：服部 健司（群馬大学大学院医学系研究科医学哲学・倫理学分野教授）

四分割表、臨床倫理委員会、倫理コンサルタント。米国発祥のこの3つが世界標準であるかのように見られがちですが、欧州北西部ではそれらとは対極的な方法（MCD）が盛んです。その特徴、手順と柔軟な使い方、本邦の臨床現場に導入するための工夫の仕方を、ケース検討を通して学びます。臨床倫理の深みを一緒に体験しましょう。

【入会のご案内】

中部支部では、随時新規会員を受け付けております。下記の事務局連絡先に、中部支部入会とし、お名前と連絡住所をメールもしくはFAXしてください。追って、申込用紙を返信いたします。

中部支部入会金：1000円 中部支部年会費：1000円

○問い合わせ先○

〒504-8601

岐阜県各務原市蘇原東島町4丁目6-2

公立学校共済組合東海中央病院

TEL ; 058-382-3101

FAX ; 058-382-1762

E-mail; miho.sawai@tokaihp.jp

担当者：澤井美穂